

## 小羊の御怒り

2009年1月4日 アシェル・イントレーター

日が経つほどに、私たちはイエシュア(イエス)の最初の降臨から離れて行き、主の再臨に近づきます。この移行の間、私たちは終わりの時についてより多く啓示を受け、イエシュアご自身はどのような方であるのかという啓示を、福音書に述べられているだけでなく、黙示録からも受けるのです。

### 黙示録 19:11-15

また、私は開かれた天を見た。見よ。白い馬がいる。それに乗った方は、「忠実また真実。」と呼ばれる方であり、義をもってさばきをし、戦いをされる。

その目は燃える炎であり、その頭には多くの王冠があつて、ご自身のほかだれも知らない名が書かれていた。

(中略)天にある軍勢はまっ白な、きよい麻布を着て、白い馬に乗って彼につき従った。

この方の口からは諸国の民を打つために、鋭い剣が出ていた。(後略)

イエシュアはここでは軍の将として述べられており、事実、万軍の主の総司令官なのです。主はヨシュア(ヨシュア 5:11)によって目撃され、礼拝された同じ主の軍の将なのです。

主の目の炎は怒りそのものです。主は再臨され戦いを挑まれ、裁き、罰を下されるのです。主は神の御怒りを実行されるのです。御怒り(wrath)は処罰と怒りの組み合わせです。これは聖書が呼ぶ「小羊の御怒り」なのです。

### 黙示録 6:16

「御座にある方の御顔と小羊の怒りとから、私たちをかくまってくれ。」

イエシュアは小羊と呼ばれています。小羊は穏やかで攻撃的ではありません。それは御怒りとは全く逆の資質です。しかし、人類の罪はあまりにも邪悪であり、今まで生きてきた人の中でも最も優しく穏やかな人でさえも激怒させるのです。小羊は御怒りを燃やすのです。

聖書の御言葉の中で読むのに最も困難な箇所は諸国に対する裁きの長い預言であり、イザヤ 13章から 34章、エレミヤ 46章から 51章、そしてエゼキエル 25章から 32章です。そのような預言は小預言書へと続き、「すべての国々を集めて、エルサレムを攻めさせる。」(ゼカリヤ 12:9、14:2)の時最高潮に達します。

数多くの御言葉において繰り返されるテーマは、終わりの時に世界中の諸国はイスラエルを攻撃し、神は裁きのため諸国と戦われるということです。

これらの中東の戦いの預言は新約聖書における終わりの時の御教えを理解する聖書的な文脈であり、オリブ山でのイエシュアの預言(マタイ 24 章、マルコ 13 章、ルカ 21 章)あるいは黙示録の御怒りに関する御言葉があります。

「この前の週、アメリカ・カンサス州のカンサスシティーのインターナショナル・ハウス・オブ・プレイヤー(訳注:国際祈りの家:略称 IHOP)は黙示録に関する一週間の会議を主催しました。これは、ガザでの戦いが開始されたのと同時期にありました。これは偶然ではありません。イスラエルのメシアニック・レムナント(訳注:残りの人々、メシアニック・ジューを表す)が諸国の教会が終わりの時について啓示を受けるのと、イスラエル国家が国際的なジハード(訳注:イスラム過激派が掲げる聖戦)に対する戦いとの間架け橋、あるいはつながりと私は見えています。」

黙示録には二種類の「金の鉢」について述べられています。最初の鉢は長老が持つ「香のいっばいはいった金の鉢とを持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖徒たちの祈りである。」(黙示録 5:8)であり、二つ目の鉢は御使いが持つ「神の御怒りの満ちた七つの金の鉢」(黙示録 15:7)です。この二つの鉢には関連があります。祈りは危険なものとなることがあります。聖霊に従って私たちがより祈ると、神の正義による裁きがより多く行われます。私たちの祈りの鉢が、神の御怒りの鉢を満たすのです。

黙示録の出来事が私たちの目の前でまさに成就し始めています。私たちはイエシュアの大きい啓示を受けねばなりません。そして中東での戦争がどのように神の最後の審判へと至るのか理解しなければなりません。

## 屋根をたたく

イスラエルの報道やイスラエルの政治家による声明において、現在の戦いはガザに対する戦いではなく、パレスチナ人に対する戦いでもありませんが、ハマスに対する戦いなのです。ハマスはテロ組織であり、その目的はイスラエルの完全撲滅を宣告しています。ハマス自身は世界中のイスラム過激派(イランを含む)の後援による、国際的なジハードの最前線であると宣言しています。

今週ハマスの「軍事的」部門の指導者の一人であるニザール・リアンが他の 14 名と共に、彼の家へのイスラエルの空爆によって殺されました。

この攻撃は注意深い諜報活動によって集められた情報の結果によるものです。リアンの位置が特定できた時、イスラエル軍と政府の法専門家は、裁判所判事がジュネーブ条約に対して合法的であるかを検証する前に、攻撃を実施するために念入りに検討しました。

攻撃の 15 分前、イスラエル軍はリアンの家に電話し人々に家から出るように呼びかけました。彼らが電話を受けた時、彼らは人間の盾として人々を屋根の上に集めました。イスラエルのヘリコプターが彼らを見て、屋根の上にいる彼らがそう思ったように、ヘリのパイロットは彼らを傷つけないと思いました。

そこでパイロットはその家の隣の野原にミサイルを発射して彼らに警告しました。彼らはまだそこを離れませんでした。そこでパイロットは殺傷能力のない兵器を発射して彼らに逃げるように促しました。彼らが屋根の上から離れた時に、パイロットはミサイルを発射して家を破壊しました。

ミサイルが着弾した時、連続して他の爆発があり、それはイスラエル軍が推察したように、この家は兵器庫として使われていたことを示していました。

市民に攻撃が来ることを知らせる方針はイスラエル軍によって、家に入る前にノックするように「屋根をたたく」と呼ばれています。

**黙示録 16:10-11** には神の御怒りの鉢を「獣の座」にぶちまけたと述べています。神の御怒りはまず人々に対して向けられるものではなく、悪の力に対して向けられます。主は人々に警告し、もし人々が悪の力から離れなければ、彼らも神の御怒りに打たれてしまいます。**11 節**には、人々は悪の行いから悔い改めず、苦しみゆえに「**神に対してけがしごとを言った**」のです。

このルールは白人であろうが黒人であろうが、ユダヤ人であろうがアラブ人であろうが、東洋人であろうが西洋人であろうがすべての人に当てはまります。私たちの罪を悔い改め、悪魔の働きから遠ざかることができるよう、そして私たちが悪魔によって罰を共に受ける者とならないよう神が助けて下さいますように。